

# 戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

## 日本眼科学会戦略企画会議第二委員会「国際化・研究」の活動紹介

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会は「国際化・研究」をテーマに掲げ、そのミッションを「日本の眼科学教育・研究を多方面から援助し、国際的なレベルで眼科学研究を発展させ、発信できるように、人材開発および交流の国際化と研究活動の推進を図る」としています。

この目的を達成するために、若手研究者の育成と研究環境整備、日本発眼科研究の国際的認知度の向上、研究施設・学会を通じた国際交流の推進という3つの長期目標を設定しています。5年間の取り組みの最終年度は本年であり、本稿では、現在の主な活動内容について紹介します。

委員会組織(敬称略)：

委員長：西田幸二(大阪大)

副委員長：石田 晋(北海道大)、相原 一(東京大)

委員：池田康博(宮崎大)、臼井智彦(国際医療福祉大)、岡田アナベルあやめ(杏林大)、川崎 良(大阪大)、榛村重人(藤田医大・東京)、高橋政代(ビジョンケア)、辻川元一(大阪大)、中澤 徹(東北大)、中村誠(神戸大)

### 1. 若手研究者の育成と研究環境整備

専攻医の学会発表と論文文化の現状、研修基幹施設での勤務体制(研究時間)と研究環境・財源を把握し、そこから問題点を抽出、研究時間と財源確保対策の検討を行うこととしています。

そのため、研修基幹施設へのアンケート調査を以前に行いましたが、再度アンケートを行う予定です。研修基幹施設に対する調査と各施設に属する医師に対する調査の2つを考えています。現在、その内容の詳細について検討していますが、学会発表と論文、研究環境に加えて、ダイバーシティ、留学に関する情報についても収集予定です。今後、定期的にアンケートを行い、日本の眼科についての貴重な情報として蓄積していく予定です。未来の日本の眼科の発展に向けた戦略構築のための重要な知識ベースとなりますので、是非ともご協力をお願い申し上げます。

### 2. リサーチマインドの向上

若手のリサーチマインドの向上のため、シニアの先

生方に日本の眼科研究に関するインタビューを行うという企画です。第1回目は新家 眞氏(東京大学名誉教授)に行い、インタビュー記事を日本眼科学会雑誌の第123巻(2019年)11月号に掲載しました。第2回目のインタビューを木下 茂氏(京都府立医科大学特命教授)に2022年12月に行いました(聞き手は東京大学の竹溪友佳子氏)。インタビュー内容は近々日本眼科学会雑誌に掲載される予定です。

### 3. 研究教育セミナーの実施

研究倫理を含めた研究教育やリサーチマインドの向上のため、毎年の日本眼科学会総会において、日本眼科学会戦略企画会議第二委員会が企画する教育セミナー、シンポジウム、スキルトランスファーを行っています。その詳細については日本眼科学会総会の公式Webサイトを参考にしてください。これまでは国内の医師・研究者に演者をお願いしていましたが、学会の国際化を推進するため、海外からの招聘を検討しています。

### 4. Young Ophthalmologists Committee の設置

日本眼科学会の若手会員からなる Young Ophthalmologists Committee を設置し、日本の眼科に関する諸問題について、若手の立場から検討してもらうことを計画しています。

### 5. 日本発の眼科研究の国際的認知度の向上

*Japanese Journal of Ophthalmology* のインパクトファクターの向上とジャーナルランキング向上のための議論を行っています。

### 6. 国内外への留学と国外からの研究者留学推進と支援活動

基幹施設ごとの留學生の現状を把握し、現状の問題点と留学奨励への手法を検討することとしています。そのため、国内外への留学と国外からの研究者留学に関する実態調査のため、1に記載しましたアンケートの中に、留学に関する情報を盛り込んでいます。

## 7. 学会の国際化の推進

日本眼科学会総会、日本臨床眼科学会の国際化を推進するため、口頭発表での使用言語の英語化を検討してきました。現在、日本眼科学会総会では、スライドは英語あるいは日本語・英語併記、発表言語は日本語、英語いずれでも可となっています。今後、使用言語の英語化についてさらに検討していく必要があると考えています。

また、アジア圏の若手研究者の招聘のため、JOS International Young Investigator Award を2019年からスタートさせ、日本眼科学会総会で日本眼科学会学術奨励賞受賞者とともに英語によるシンポジウム「The International Crosstalk Symposium by Young Ophthalmologists」を開催しています。これは毎年の日本眼科学会総会で継続実施していく予定です。

## 8. 眼科ゲノム研究のサポート体制の整備

眼科研究者で共有可能な対照群のデータセット構築のため、ゲノム試料・情報の収集と提供に関するデータの取り扱いをルール化し、2022年1月にWebサイトに案内を公開しました。2022年9月の時点で、18施設が中央審査を通過し、800検体のエントリーがある状況です。なお、2023年末までに2,000検体の収集を

目標とし、1,000検体が収集できた時点で中間解析を行う予定となっています。

## 9. 日本網膜色素変性レジストリプロジェクトの運営

日本網膜色素変性レジストリプロジェクト(Japan Retinitis Pigmentosa Registry Project: JRPRP)は網膜色素変性の患者登録(レジストリ)を行うシステムです。網膜色素変性の基礎研究・臨床研究を推進し、その病態解明と治療法開発に貢献することを目的として、厚生労働省科学研究費の研究班(「網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究」)が中心になって運営されてきました(<https://convention.jtbcom.co.jp/jrprp/>)。現在は日本眼科学会のサポートによって、本プロジェクトの運営が継続されています。

## 10. その他

日本再生医療学会再生医療等製品レジストリ協議会への委員派遣、遺伝性網膜ジストロフィ(IRD)パネル検査システムの臨床実装に向けた研究会の開催支援、日中韓眼科ジョイントミーティングについての検討などを行っています。